

総合経営学部の3つのポリシー

1. ディプロマポリシー

総合経営学部は、修得単位上の卒業要件を満たしたうえで、次の目標を達成した学生に学士の学位を授与する。

【総合経営学科】

- ①地域社会について理解し、地域一般に関する知識を身につけている。さらに加えて企業社会で活動するための基本的素養を身につけている。
- ②倫理観を含め、社会で活動するための基本的な人間性を身につけている。
- ③マナー・コミュニケーション等、社会人としての基礎能力を身につけている。

【観光ホスピタリティ学科】

- ①地域社会について理解し、地域一般に関する知識を身につけている。さらに加えて福祉社会についての基礎知識を持ち、ホスピタリティの知識・技術を身につけている。
- ②倫理観を含め、社会で活動するための基本的な人間性を身につけている。
- ③マナー・コミュニケーション等、社会人としての基礎能力を身につけている。

2. カリキュラムポリシー

(1) 教育課程の編成方針

総合経営学部は、大学の使命・目的および学部としての人材養成目的を達成するため、次の方針に沿って教育課程を編成し実施する。

- ①人間形成に関わる教養教育を重視する観点から、学生がすべての年次にわたって教養教育を受けられるようにする。
- ②マナー・コミュニケーション等の基礎能力育成のため、実践的教養教育を充実させる。

③入学前から就職決定まで一貫した体系的キャリア教育を組み込む。

【総合経営学科】

総合経営学科にあつては、地域社会についての理解とともに、企業人として必要な知識・技術の修得を重視する。

【観光ホスピタリティ学科】

観光ホスピタリティ学科にあつては、地域活性化についての理解とともに、福祉とホスピタリティにかかわる基礎的知識・技術の修得を重視する。

(2) 教育方法に関する方針

総合経営学部は、大学の使命・目的および学部としての人材養成目的を達成するため、次の教育方法を取り入れる。

- ①地域社会を理解し、理論と実践のバランスよい教育を実現するため、正課教育として地域での実践活動を導入する。
- ②ゼミナールを中心とした少人数教育を通じて、学生個々の状況を把握し効果的な教育を実現する。

3. アドミッションポリシー

総合経営学部は、学部及び学科の教育研究上の目的、並びにディプロマ・ポリシーに基づき、それぞれ以下のような観点、項目に関心のある人材を受け入れるため、専門領域ごとの特性にあった多様な入学制度を設けて、幅広く人材を受け入れることを基本としている。

【総合経営学科】

- ①会社や組織、社会を維持・発展させる“経営”に強い興味を持つ人
- ②将来の社会生活に具体的な夢を持ち、その実現のための強い意志を持つ人
- ③社会を豊かにする様々な知識や新しい技術の修得と活用に強い意欲のある人

【観光ホスピタリティ学科】

- ①観光・まちづくりを通して、社会や文化の発展に寄与したい人
- ②福祉をさまざまな角度からとらえ、幸せを感じられる社会の構築をめざす人
- ③地域や社会を十分に理解しそれを支える人材になりたい人

人間健康学部の3つのポリシー

1. ディプロマポリシー

人間健康学部は、修得単位上の卒業要件を満たしたうえで、以下のような力を身に付け、総合的な能力を修得したと判断される学生に対し、学士の学位を授与する。

【健康栄養学科】

「食と栄養」に関する専門的な知識及び指導実践力をもって食と栄養に関わり、関連する課題把握、並びに課題解決に主体的に携わることのできる総合的な能力を身につけている。

- ①専門的な知識と実践力をもとに、食と栄養を中心に人とそれを取りまく環境を科学的に探究し、関連する課題解決に主体的に携わることのできる総合的な能力を身につけている。
- ②自ら生きる現代社会とその成り立ちに関心を持ち、広い分野にわたる分析力・理解力を身につけ、深めた事象の理解のもと、自ら判断し行動できる能力を身につけている。

③地域社会を構成する一人の人間として不可欠な社会的マナーと、相互理解を達成できる能力を身につけている。

【スポーツ健康学科】

「運動とスポーツ」に関する専門的な知識及び指導実践力をもって運動とスポーツに関わり、健康の維持・増進並びにスポーツの振興に貢献できる総合的な能力を身につけている。

- ①専門的な知識及び実践力をもって「運動とスポーツ」に関わり、健康の維持・増進並びにスポーツの振興に貢献できる力を身につけている。
- ②自ら生きる社会と取り巻く環境に関心を持ち、広い視野で分析、理解し、自ら判断して行動する能力を身につけている。
- ③地域社会を構成する人として必要な社会性とコミュニケーション能力を、実習や実践を通して身につけている。

2. カリキュラムポリシー

(1) 教育課程の編成方針

人間健康学部は、幅広い教養並びに基礎的能力と専門的能力を身につけた人間形成をめざし、以下の方針で教育課程を編成し実施している。

- ①教養科目をモジュール化して科目設定の意図を明らかにする。
- ②専門教育では講義、実験、実習、実技、及びゼミナールを階層的・横断的に配置し、専門基礎から、専門性応用・発展に段階的に進めるようにする。科目間の関連はカリキュラムツリーにより明示する。
- ③専門的な技能や知識の学びに加え、学外における実践教育を重視し、地域の健康問題に「食と栄養」・「運動とスポーツ」などの面から関わりをもてる科目を設定する。

(2) 教育目標

- ①学ぶことの意味や方法を理解させ、自主的かつ自立的な学びの姿勢や態度を育成する。
- ②地域や地域社会に関心を持たせ、健康問題など諸課題を多面的かつ論理的に理解する力を養成する。
- ③柔軟な発想と積極的な実践力を備えた社会人としての基礎力を養成するために、幅広い教養、語学力、メディアリテラシー等を培う。

(3) 教育方法に関する方針

【健康栄養学科】

食と栄養に関する知識や実践力を修得させ、分子から群集にいたる各階層での人の理解を基盤に、食と健康に関わる社会や地域の諸課題を解決する力を養成する。

【スポーツ健康学科】

運動とスポーツを人文・社会・自然科学など学際的・総合科学的視点から理解させ、学ばせること及び、技術面や指導力の向上が必要であり重視している。

3. アドミッションポリシー

人間健康学部は、学部及び学科の教育研究上の目的、並びにディプロマ・ポリシーに基づき、それぞれ以下のような観点、項目に関心のある人材を受け入れるため、専門領域ごとの特性にあった多様な入学制度を設けて、幅広く人材を受け入れることを基本としている。

【健康栄養学科】

- ①栄養と健康に強い興味・関心のある人
- ②栄養や健康を通じて、地域社会に貢献したい人
- ③現代社会における食の課題解決に積極的に取り組む意欲のある人

【スポーツ健康学科】

- ①運動とスポーツを通して地域の活性化や健康づくりに取り組もうとする人
- ②地域を生かしたヘルスケア・スポーツビジネスモデルづくりに挑戦しようとする人
- ③子どものこころと身体を育てる体育科教育や健康教育を創造し新たな学校教育を推進しようとする人

教育学部の3つのポリシー

1. ディプロマポリシー

教育学部は、修得単位上の卒業要件を満たしたうえで、以下のような力を身に付け、総合的な能力を修得したと判断される学生に対し、学士の学位を授与する。

- ①長野県の初等教育を誠実に担って行こうとする意欲を持った人材 [地元力]
学校教育の周辺分野において、学校現場をサポートできる力量を持ち、地域社会の発展と地域文化の振興に資する力量を持った人材も包摂している。
- ②子どもの発達段階に応じた育ちのあり様を理解しようとする人材 [子ども理解力]
現場体験の中で子ども達の行動様式を観察・確認するだけでなく、心理学的な学びを深めることで、子ども個々人の内面からの洞察も加えられるようにする。
- ③子どもの学ぶ力を引き出す分かりやすい授業を展開できる人材 [授業力]
初等教育の基本となる、分かりやすくやる気を引き出せる授業を展開できる能力や児童の間違った思考過程をクラス全体の深い理解に活かせる柔軟な指導力を獲得する。
- ④子どもの個性を尊重しながら学級を運営できる人材 [学級運営力]
学級の構成員である子ども達の和を保ちつつ、それぞれの能力を引き出し、学校で学ぶことが楽しいと思えるクラス運営を実施できる力を獲得する。

- ⑤同僚の協力を得ながら生徒指導の諸課題に対応できる人材〔生徒指導力〕
最近の複雑な様相を呈する生徒指導・進路指導の諸課題に、人間的幅の広さを備えて、他の教師と協力しながら対応できる力を培う。
- ⑥地域の力を学校教育に導入・活用できる人材〔地域連携力〕
児童の多様な能力を引き出すには、保護者を含む地域の教育力を学校に取り込み、地域と一体となって子ども達を育てる、柔軟かつ原則的な対応ができる能力を培う。
- ⑦同僚と協力して学校運営をできる人材〔学校運営力〕
他の教師と協力して学校運営に携わることができるのは、学校に生起する諸課題を前向きに改善するために必要な資質であり、その力を獲得する。
- ⑧自分の守備範囲を拡げることに意欲的である人材〔自己開拓力〕
小学校の教員免許取得にとどまらず、特別支援学校や中学校の一種免許など時代の変遷に順応して、自分が携わることのできる教育の範囲を絶えず広げようとする意欲的な姿勢を養成する。

2.カリキュラムポリシー

1) 教育課程の編成方針

- ①教養科目と専門科目のバランスがとれた配置で、専門性の獲得とそれを支える広く深い教養を身につけ、教育者あるいはその支援者としての魅力を高める。
- ②教養科目はモジュール化し、科目設定の意図を明示する。
- ③教師としての八つの力を基に、小学校教諭一種免許や特別支援学校教諭一種免許を取得する専門的力を身につけることができる専門科目を配置する。
- ④教育現場との交流を重視した「教育実践科目群」や「教育実習科目群」を配置する。

2) 教育内容

- ①地域の実情を知り、子どもに寄り添った学びを展開できるように、教養科目に「地

域を考える科目群」や専門応用・発展科目の中に「教育深化と心理科目群」を置くなど、独自の工夫を取り入れる。

- ②地域社会と連携した学校運営で、どの子にも行き届いた初等教育の実現を目指し、学ぶことが楽しい学校生活の実現に向け、信州型コミュニティスクールの進展に寄与できる力を養う。
- ③地域社会、特に教育現場との交流を日常化し、教育実習以外でも密接にして、地域の初等教育を担う、あるいは学校教育に関連する分野において地域の教育力の向上を図るという自覚の高い人材を育成する。
- ④グローバル化が進む社会に対応して、将来の初等教育における英語教育のあり方の進展に機敏に対応する。
- ⑤子ども達への ICT 化の波がどのように押し寄せているかを認識し、有効な利用方法のみならず、その危険性についても適正な教育ができる基礎的な知識を獲得する。

3) 教育方法

- ①座学だけではなく、教育現場との結びつきを強め、子ども達の実態に基づいた教育ができるようにするため、PBL 型のアクティブラーニングを取り入れた授業展開を重視する。
- ②学生間同士の切磋琢磨により、教員としての力量の向上を目指すため、「教学半」のような学びのスペースや、教員への積極的質問を受けつける相談窓口としての各種センターを設け対応する。
- ③ゼミナール等少人数教育を推進し、講義以外の演習や実習形式の授業も重視する。
- ④正課外の活動にも、教師としての成長を促す要素が数多くあることから、学生の自主的な課外活動を支援する。

4) 評価

- ①一貫した教育目標・内容・方法を設定して、学生の活動意欲の向上と学修支援に

取り組み、厳正な出席管理や成績評価を実施する。

- ②GPA 値の見える化など、学修成果をフィードバックすることで、PDCA サイクルを自身で回し、絶えず学修計画の見直しを図れるようにする。その判断結果の妥当性等を、ゼミナール担当教員等が話し合いの中で評価しアドバイスする。
- ③「教育実習」とその事後指導や「卒業論文」など、学修成果をまとめ発表させることで、学位授与に向けた人材育成の達成度評価の場とする。

3. アドミッションポリシー

教育学部は、学部及び学科の教育研究上の目的、並びにディプロマ・ポリシーに基づき、それぞれ以下のような観点、項目に関心のある人材を受け入れるため、専門領域ごとの特性にあった多様な入学制度を設けて、幅広く人材を受け入れることを基本としている。

本学部が期待する次の①～⑦の姿勢の内、①～③をすべて満たし、④～⑦の少なくとも1つ以上を満たしていること。

- ①子どもの人格形成に大きな影響を及ぼす存在になるという自覚を持った人
- ②子どもが好きで、子どもに寄り添いながらその成長を願う心を持った人
- ③子どもの教育に必要な知識、技能、表現力を積極的に身につけようとする人
- ④自ら課題設定ができ、その解決に向けて前向きに努力しようとする人
- ⑤幅広い分野に興味・関心を持ち、絶えず自身の許容量を広げようとする人
- ⑥教育現場の教職員、保護者を含む地域の方々との連携を重視し、協働できる人
- ⑦同僚との協力を強め、地域の教育の質向上に向けて絶えず努力できる人

たとえ入学前には満たしていない項目があっても、大学で学ぶ間に身につけていくことを望む。